

第6学年 外国語科学習指導案

1 単元名

Let's go to Italy.

(NEW HORIZON Elementary 6 Unit3)

2 単元について

本校校内研究の研究主題

「新しい時代を担う児童の育成 発信力向上を目指したパフォーマンス評価の工夫」を踏まえて

(1) 教材観

本単元「NEW HORIZON Elementary 6 Unit 3 『Let's go to Italy.』」は、「話すこと[やり取り]」を中心領域に据え、クラスのみんなで行きたい都道府県について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことをねらいとしている。

本単元では、「Where do you want to go?」「I want to go to ～.」や「Why do you want to go to ～?」「You can eat (see, enjoy, buy) ～.」などの表現を用いて、10年後クラスのみんなで行く旅行の旅行先や、その旅行先でできること等について、自分の考えや気持ちを伴いながら伝え合っていく学習を展開する。

本校では、今年度、児童の「発信力」の向上を目指して、外国語科及び外国語活動の研究と実践を行っている。この「発信力」は、本県の英語教育改善プラン推進事業が事業目的に掲げる力でもあり、「自分の考えや気持ちを英語で伝え合う力」と定義されている。

本単元の学習を通して、児童に身に付けさせたい力は、後述の CAN-DO リストの形での学習到達目標（本学習指導案 p.5）にも示した通り、「自分や相手のこと、身の回りの物などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、その場で関連する質問をしたり質問に答えたりすることができる」やり取りの力である。これは、学習指導要領に示されている領域別目標「話すこと[やり取り]」のウ「自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。」に対応したものである。

以上を踏まえ、本単元では、「10年後クラスのみんなで行きたい都道府県について、その場で関連する質問をしたり質問に答えたりしながら、自分の考えや気持ちを英語で伝え合う力」の育成を中心に据え、学習を展開したい。

本単元「NEW HORIZON Elementary 6 Unit 3 『Let's go to Italy.』」は通常であれば、6学年1学期の第3単元として学習する。しかし本校ではこれを2学期第3単元とする学習計画を構想した。

「NEW HORIZON Elementary 6」本校の学習計画	「NEW HORIZON Elementary 6」通常の単元配列
1 学期 ・ This is me ! ・ How is your school life ? ・ We all live on the Earth.	1 学期 ・ This is me ! ・ How is your school life ? ・ <u>Let's go to Italy.</u>
2 学期 ・ Summer Vacations in the World (* 過去形の学習) ・ Let's think about our food. ・ <u>Let's go to Italy.</u>	2 学期 ・ Summer Vacations in the World (* 過去形の学習) ・ We all live on the Earth. ・ Let's think about our food.

これは、主に2つの理由による。1つは、本単元の学習に先立って「Summer Vacations in the World」に

において過去形（一般動詞の過去形と、It was delicious 等の表現）を学習しておくことで、本單元において「自分の考えや気持ち」を表現する際に既習の過去形を活用することができる点である。児童が、みんなで行きたい都道府県について話す際、自分の（あるいは家族等の）過去の経験に基づいておすすめするというは聞き手に共感してもらうための1つの要素であると思う。本單元では、「〇〇県で食べた××がおいしかったから〇〇県に行きたい等，“行ったことがあるからみんなで行きたい””と考える児童と「△△県で大仏を見たことがあるから今度は□□県にある大仏を見たい等，“行ったことがないからみんなで行きたい””と考える児童の2通りが出てくるわけだが、いずれにおいても過去形は有効に使える。

もう1つは、2学期の3つの単元の内容面でのつながりである。第1單元「Summer Vacations in the World」では、夏休みや過去の旅行経験を題材にやり取りや発表を行った。第2單元「Let's think about our food.」では、日本各地のご当地給食を題材にやり取りを行った。本単元の題材である「みんなで行きたい旅行先」と、過去の旅行経験、ご当地給食の間には内容的なつながりがある。3つの単元に内容的なつながりをつくることで、「思考・判断・表現」の評価に関わる、内容面の質的な深まりを期待できると考えた。なお、本單元で学習すべき国に関する語彙については、5年 Unit 6 「What would you like?」で履修済みである。

本單元終了後（12月）、2学期のパフォーマンステスト（Check Your Steps）として、ALT に対して、日本国内のおすすめの都道府県を紹介するという課題を設定している。これまでに学習してきた既習表現を駆使し、会話の相手である ALT に対して、その場で関連する質問をしたり質問に答えたりしながら、自分の考えや気持ちを英語で伝え合う姿を期待したい。

（2）児童観

○外国語科の学習について

本学級は、児童 31 名の学級であり、5 年次からのクラス替えはしていない。積極性に関してはやや課題があるが、教員や友達の話をよく聞いてじっくりと考えるタイプの児童が多い。

外国語科の指導に関しては、5 年 1 学期は英語専科教員と ALT が、5 年 2 学期からは学級担任である授業者と英語専科教員と ALT の 3 名が連携して指導を行ってきた。

昨年度（5 年次）から、既習表現を活用しながら「その場で質問したり質問に答えたりしながら」伝え合う力の育成を重視して指導を行ってきた。それは、毎時間の冒頭に行うスモールトークや、言語活動（実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動）を中心に据えた学習、目的・場面・状況の設定にこだわった単元末パフォーマンス課題の設定といった指導の工夫である。こうした学習の積み重ねにより、「その場で質問したり答えたりしながら」やり取りをすることに対する抵抗感は少しずつ小さくなり、やり取りを楽しんで行う様子もみられるようになってきた。

○1 学期末のパフォーマンステストから

今年度 1 学期末には、ALT や英語専科教員に対して「自分についてより深く知ってもらうために、自己紹介をしてみよう」というパフォーマンステスト（Check Your Steps）を行った。誕生日や宝物、休日の過ごし方など、1 学期に実施した各 Unit の表現と、これまでに学習した既習事項を活用して、質問に答えたり、相手に質問を返したりしながら自分のことについて紹介していくという課題を設定した。

1 学期末のパフォーマンステストを通して見えてきた本学級児童の課題は主に 3 つである。

1 つ目は、相手からの質問に対してセンテンスで返答する力である。例えば「What do you usually do on Sundays?」という質問に対して、「I usually...」とセンテンスで返答することができた児童が少なかった。会話の中では時に単語のみで返答しても支障がないこともあるが、知識・技能の習得との関係からも、センテンスで表現する力を伸ばしていきたい。

2つ目は、会話を継続・発展するための反応（リアクション）をする力である。今回のパフォーマンステストでも、相手との会話の中でうなずいたり、首を横に振ったり、表情を変える等の非言語的なリアクションは大半の児童が行うことができていた。一方で、「Oh, nice!」「One more time, please.」といった表現を使ったり、相手の発話を繰り返したりするなどの言語的なリアクションをとることができた児童は3名のみであった。また返答に困って長い時間黙ってしまう児童もみられた。相手からの質問に対して会話を継続・発展させるためのリアクションをとることは授業の中でも繰り返し指導を重ねており、1学期のパフォーマンス課題の中で適切に使えていた児童もいた。パフォーマンステストの緊張感が影響を及ぼしたことも考えられるが、リアクションを使いこなして会話を継続・発展させる力をさらに伸ばしていきたい。

3つ目は、自分から質問する力である。今回のパフォーマンステストで、会話の中で自分から相手に対して質問をすることができた児童は31名中12名であった。さらに会話の流れをふまえた適切な質問をすることができた児童となると、さらに少なかった。5年次や1学期の学習でも、平叙文は正しく言えるが、それに対応する疑問文を言うことができない児童がみられた。疑問文を正しく習得し、それを相手との会話の中で適切に使いながら質問をする学習場面を多く設定することで、自分から質問をする力を伸ばしていきたい。

○児童の海外・国内旅行経験

本単元の学習内容（題材）に関わって、本学級児童の旅行経験について質問紙調査（アンケート）により実態把握を行った。海外旅行経験がある児童は7名（フィリピン、タイ、グアム、ハワイ等）であった。国内旅行については、行き先は関東地方や中部地方に集中しており、東北地方（2名）や九州地方（2名）への旅行経験がある児童は少なかった。こうした実態を踏まえ、本単元では教科書題材の海外旅行ではなく、国内旅行を題材として学習を展開することにした（詳しくは後述）。また、題材を国内旅行にしたとしても、児童の限られた旅行経験、旅行先に関する知識の中では、「みんなで行きたい都道府県」として選ぶ都道府県が偏ってくるのが想定された。そこで、本単元の学習に先立って、学年フロアに各都道府県の旅行雑誌を置いた。また、2学期第1単元「Summer Vacations in the World」では、夏休みやこれまでの旅行経験について過去形を用いて発表する学習、第2単元「Let's think about our food.」では全国各地のご当地給食についてやり取りする学習を行ってきた。こうした学習経験により、言語面だけでなく、内容面の深まりも期待できるのではないかと考えた。

（3）指導観

本単元の指導に当たっては、児童の「その場で関連する質問をしたり質問に答えたりしながら、自分の考えや気持ちを英語で伝え合う力」の育成のために、主に以下の3点に留意した。

【① 目的・場面・状況を意識したパフォーマンス課題の設定】

1つ目は、目的・場面・状況を意識したパフォーマンス課題の設定である。本単元で設定したパフォーマンス課題を、目的・場面・状況に分けて示すと、次のようになる。

目的：クラスみんなで10年後に行く旅行の旅行先として、どこの都道府県がよいかを決めるため

場面：教室における同じクラスの友達同士（私とあなた）の会話

状況：おすすめする側はその都道府県について詳しく知っている（あるいは行ったことがある）が、相手はそれほど多くを知らない。お互いにクラスの友達の好みや関心についてある程度知っている。どちらかがおすすめする立場でどちらかがおすすめされる立場

ではなく、お互いが自分の「おすすめの都道府県」について伝え合う。

本単元では、ツアープランナー（旅行代理店）とお客さんという設定ではなく、「〇〇県に行きたい私と、□□県に行きたいあなた」という等身大の自分と同学級の友達としてやり取りを行うことにこだわった。これは、“なりきり”や“ごっこ”ではない“本当の”自分の考えや気持ち」を伝え合う場面を設定することで、やり取りの量的・質的な高まりを期待したいと考えたからである。こうした設定により、本校の令和3年度の研究授業を通してみえた、相手意識を ALT に向けてやり取りをすることの難しさという実践上の課題も改善することができると考えた。

また、時間を区切って、おすすめする側（話し手）とおすすめされる側（聞き手）を分けるのではなく、1組のペアの中で一人の児童がおすすめする側とおすすめされる側の両方の立場でやり取りをするようにした。これは、相手に応じて、あるいは相手の話す内容に応じて、話す内容や順序を変えながら、相手意識をもったやり取りの場面を設定したいと考えたからである。

なお、教科書では海外旅行（国）が題材になっているが、本単元では国内旅行（都道府県）を題材とした。その理由は2点である。1つは、前述した児童の旅行経験を踏まえると、多くの児童にとって海外旅行はイメージが湧きにくく意欲を喚起しにくいという点、もう1つは、各国の食べ物や観光名所に関する固有名詞が難しく、特に聞き手となる児童にとっての学習負担が大きい点である。これらの理由から、本単元で目指す「その場で関連する質問をしたり質問に答えたりしながら、自分の考えや気持ちを英語で伝え合う力」に迫る学習を実現するためには、海外旅行（国）よりも、国内旅行（都道府県）を題材にしたほうがよいと判断した。

【② Do you want to ～? の表現を扱うこと】

2つ目は、Do you want to ～?（～したいですか?）の表現を扱うことである。これは教科書では新出表現に含まれていない表現、また使用が想定されていない表現である。本実践ではこれを3時間目で扱い、児童が使いこなせる表現になるように指導する。この表現を児童が使える表現にしておくことで、相手の意向を確認しながらおすすめしたり、相手に共感してもらえるようにおすすめしたりしようとする姿が期待できる。さらに、「Do you want to ～?」を使って相手の意向を尋ねたら「No」と言われてしまった、すなわち自分がよかれと思っておすすめした内容が相手の意向にそっていなかったという場面に遭遇した時にどのようにやり取りを継続・発展させていくか思考し判断し表現する場面をつくることで、「その場で関連する質問をしたり質問に答えたりしながら」伝え合う力の育成につながると考えた。外国語活動及び外国語科で行う言語活動では、とかく「Yes」「Nice」という共感的なやり取りが多いように思うが、自分と異なる考えを持つ人といかに意思疎通を図るかということこそコミュニケーション能力の重要な側面であり、それは「発信力」の質的な高まりにもつながると考える。なお、同じように相手の好みを尋ねる「Do you like ～?」や「What ～ do you like?」といった既習表現が出てくることも期待したい。

【③ 1人1台端末 Chromebook（クロームブック）の活用】

3つ目は、1人1台端末 Chromebook の活用である。本単元では「おすすめの都道府県」についてやり取りをする際に1人1台端末 Chromebook の Google スライドを活用する。その都道府県でできること（食べられるもの、見られるもの、楽しめること、買えるもの）に関する画像を提示しながら伝え合うことで、より聞き手に伝わるやり取りができるだろうと考えての手立てである。しかしこの Google スライドは使い方によっては、やり取りの幅を狭めてしまうことがある。画像を順番にスライドに貼り付けることで、やり取りが画像の順番に規定されてしまうことがある。これはこれまでの授業者の実践（5年 What would

you like?, 6年 We all live on the Earth.) を通してみえてきた課題であった。そこで、本単元では Google スライドのリンク機能を活用し、児童がスライド画面上のどこをタップするかによって、表示される画像が変わる設定を施した。これにより児童は、相手の反応や意向に応じて「その場で」話す順番や内容を変えることが可能になる。「聞き手に分かりやすく伝わるように複数あるものの順番を決めたり、選んだりすること」は、主として「話すこと [発表]」の目標ではあるものの、[やり取り] と [発表] で目指す力は相互に関係するものである。Google スライドのこうした機能を活用することによって、児童のやり取りの質を高めることができると考えた。

3 「Can Do リスト」の形での学習到達目標(第6学年)

話すこと [やり取り]	書くこと
自分や相手のこと、身の回りの物などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、その場で関連する質問をしたり質問に答えたりすることができる。	自分が知っている情報や考えについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。

関係する領域別目標：話すこと [やり取り] ウ、書くこと イ

※「書くこと」については、目標に向けて指導は行いが、記録に残す評価は行わない。

4 単元の目標

クラスのみんなで10年後に行きたい「おすすめの都道府県」の魅力について、伝え合うことができる。また、自分が知っている情報や考えについて例文を参考に文を書くことができる。

5 言語材料

○新出表現 Where do you want to go? / Do you want to see Mt. Fuji?

既習表現 Tokyo is nice. / You can eat pizza. / It's beautiful. / I want to go to Tokyo. /

Where is Hokkaido? / What can we eat (see, enjoy, buy)? /

I ate (saw, enjoyed, went to) ~. / Did you eat pizza? / What's this? / Sounds good. / Do you like ~?

/It seems delicious.

既習語彙 食べ物, 様子, 味, 地名 (国, 都道府県), 遊び

6 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 「やり取り」	<p><知識></p> <p>Where do you want to go? / Do you want to see Mt. Fuji? / What can we ~? / Hokkaido is nice. / You can ~. / It's ~. / I went to ~. / I enjoyed ~. / I ate ~. / It was ~. およびその関連語句などについて理解している。</p> <p><技能></p> <p>Where do you want to go? / Do you want to see Mt. Fuji? / What can we ~? / Hokkaido is nice. / You can ~. / It's ~. / I went to ~. / I enjoyed ~. / I ate ~. / It was ~. およびその関連語句などを用いて、考えや気持ちを伝え合うために必要な技能を身に付けている。</p>	<p>「おすすめの都道府県」について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちをクラスの友達と伝え合っている。</p>	<p>「おすすめの都道府県」について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちをクラスの友達と伝え合おうとしている。</p>

7 単元の指導と評価の計画（全8時間）

時	目標（◆） 主な活動（○） 誌面化されている活動（【 】）	評 価			
		知 技	思 判 表	態 度	◎評価規準（評価方法）
1	<p>◆「おすすめの都道府県」とそこで食べられるものを尋ねたり答えたりできる。</p> <p>○ Let's Watch and Think</p> <p>○ 【Starting Out】</p> <p>○ New Words ・ PD P.16 国名</p> <p>○ New English</p> <p>Where do you want to go? / I want to go to .</p> <p>Why do you want to go to ~? / We can eat ~.の尋ね方と答え方を知る。</p> <p>○ Enjoy Communication</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ST1: Where do you want to go? ST2: I want to go to Hokkaido. ST1: Why(do you want to go to Hokkaido) ? ST2: We can eat hotate. ST1: Sounds nice! </div> <p>○ Review</p>				<p>★本時では、目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p>評価／指導改善へのポイント</p> <p>活動を通して、“Where do you want to go?”や “I want to go ~.”について繰り返し聞かせる中で、理解しにくい児童がいた場合は、児童に指導者から直接問いかけ、日本語での回答を英語に置き換えて戻し、本単元で扱う語句や表現を十分に聞かせるようにする。</p> <p>（行動観察・Review Card）</p> </div>

<p>2</p>	<p>◆「おすすめの都道府県」でできることを尋ねたり答えたりできる。</p> <p>○Where is it? Quiz</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国で何ができるか（食べられるか、見られるか、買えるか、楽しめるか）をクイズ形式で答える。 <p>○Small Talk</p> <p>○New English</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ What can we eat in ~?/ We can eat ~.の尋ね方と答え方を確認する。 ・ Hokkaido is wonderful.のように様子を表す語用いた感想の言い方を確認する。 <p>○Enjoy Communication</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ST1: Where do you want to go? ST2: I want to go to Hokkaido. ST1: What can we ※eat in Hokkaido? ST2: We can eat jingisukan. ST1: Hokkaido is wonderful. ※eat,see,buy,enjoy</p> </div> <p>○【Let's Read and Write】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに「おすすめの都道府県」でできることを書く。 <p>○Review</p>	<p>○</p>	<p>★本時では、目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p>評価／指導改善へのポイント</p> <p>Teachers Talk や TC 間の対話活動を通して、“What can we do?”や “We can～.”について繰り返し聞かせる。Small Talk や Enjoy Communication のやり取りがうまくいかない児童がいた場合は, eat pizza や see the great wall など、前時で学習した4つの動詞（eat,see,buy,enjoy）の具体例が示されたヒントカードを提示する。</p> <p>（行動観察・Review Card）</p> </div>
<p>3</p>	<p>◆相手の意向を尋ね、相手の意向に応じた提案ができる。</p> <p>○Where is it? Quiz</p> <p>○Small Talk</p> <p>○Let's Watch and Think</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の意向に合わせて、「おすすめの理由」を伝えることについて考える。 <p>○New English</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Do you want to ※eat ～ ?を使った相手の好みの尋ね方と答え方を知る。 <p>○「おすすめの理由」をさらに調べる。</p> <p>○Enjoy Communication</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ST1: Where do you want to go? ST2: I want to go to Hokkaido. ST1: Do you want to eat jingisukan? ST2: No, I don't. I don't like meat. ST1: OK. Do you want to eat kaisendon? ST2: Yes, I do. I like seafood. ST1: Hokkaido is good. We can eat delicious kaisenndon.</p> </div> <p>○Review</p>	<p>○</p>	<p>★本時では、目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p>評価／指導改善へのポイント</p> <p>（知・技）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Do you want to ～?の表現が未定着な場合はこの表現を取り上げた Teachers Talk を再度視聴させる。その後も表現が覚束ないようであれば LW&T のやり取りの途中を抜粋し、画面に提示する。 <p>（思・判）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に意向を尋ねている児童：A ・話し手に、自分の気持ちを伝えている児童：A <p>（行動観察・Review Card）</p> </div>
<p>4</p>	<p>◆自分の経験を踏まえて、「おすすめの都道府県」</p>	<p>○</p>	<p>★本時では、目標に向けて指導</p>

	<p>に行きたい理由を伝えることができる。</p> <p>○Where is it? Quiz</p> <p>○Small Talk</p> <p>○【Let's Listen 2】</p> <p>○Let's Watch and Think</p> <p>○過去の自分の旅行経験を想起する。</p> <p>○Enjoy Communication</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ST1: Where do you want to go?</p> <p>ST2: I want to go to Hokkaido.</p> <p>ST1: Why(do you want to go to Hokkaido) ?</p> <p>ST2: I ate ikuradon in Hokkaido.</p> <p style="padding-left: 40px;">It was fresh.</p> <p style="padding-left: 40px;">I want to eat fresh ikuradon.</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ST1: Where do you want to go?</p> <p>ST2: I want to go to Hokkaido.</p> <p>ST1: Why (do you want to go to Hokkaido) ?</p> <p>ST2: I ate ikuradon in Shizuoka. It was delicious. I want to eat ikuradon in Hokkaido.</p> </div> <p>○Review</p>			<p>は行すが、記録に残す評価は行わない。</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価／指導改善へのポイント</p> <p>○Enjoy Communication の際に、UNIT 4 で使用した (eat,see,buy,enjoy) の動詞のカードを各班に配布しておく。</p> <p>○Where do you want to go ?</p> <p style="padding-left: 40px;">I want to go to ~</p> <p>の表現が未定着な場合は、ヒントカードを渡し、それを読み上げることで定着を図る。</p> <p>(行動観察・Review Card)</p> </div>
5	<p>◆相手の行きたい「おすすめの都道府県」の魅力を聞き出そう。</p> <p>○Where is it? Quiz</p> <p>○Small talk</p> <p>○Let's Watch and Think</p> <p>○Enjoy Communication</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ST1: Hello.</p> <p>ST2: Hello.</p> <p>ST1: Where do you want to go?</p> <p>ST2: I want to go to Hokkaido.</p> <p>ST1: Why(do you want to go to Hokkaido) ?</p> <p>ST2: We can eat kaisendon in Hokkaido.</p> <p style="padding-left: 40px;">I ate kaisendon. It was delicious..</p> <p>ST1: Sounds nice. What can we see ?</p> <p>ST2: We can see night view in Hakodate.</p> <p>ST1: What can we buy?</p> <p>ST2: We can buy Shiroikoibito.</p> <p>ST1: What can we enjoy?</p> <p>ST2: We can enjoy skiing.</p> <p>ST1: Oh, I see. Hokkaido is great! Thank you.</p> <p>ST2: Thank you.</p> </div> <p>○Review</p>	○		<p>◎都道府県の魅力を尋ねたり答えたりすることができる。(行動観察)</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「話すこと」の記録に残す評価 (知・技)</p> <p>話し手：I want to go～./We can (eat,see,buy,enjoy)./I ate～./などの表現を活用して「おすすめの都道府県」について、既習の語句や表現を用いておすすめの理由を伝えている。</p> <p>聞き手：Where do you want to go?/Do you want to～? /What can we～? /などの表現を活用し、「おすすめの都道府県」でできることを質問している。</p> <p>* 会話がうまくつながらない場合は、聞き手側の質問例を示し、繰り返し表現させることで定着させる。</p> <p>(評価シート・行動観察・Review Card)</p> </div>

6 (本時)	<p>◆クラスのみんなで10年後に行きたい「おすすめの都道府県」の魅力について、伝え合うことができる。</p> <p>○Small talk</p> <p>○Let's Watch and Think</p> <p>○Enjoy Communication</p> <p>○Review</p>		○	○	<p>◎みんなで行きたい旅行先について、友達と自分の考えや気持ちを伝え合っている。(評価シート・行動観察・Review Card)</p> <p>話すこと [やり取り] (思考・判断・表現)</p> <p>話すこと [やり取り] (主体的に学習に取り組む態度)</p>
7	<p>◆クラスのみんなで10年後に行きたい「おすすめの都道府県」の魅力について、伝え合うことができる。</p> <p>○Small talk</p> <p>○Let's Watch and Think</p> <p>○Enjoy Communication</p> <p>○Review</p>		○	○	<p>◎みんなで行きたい旅行先について、友達と自分の考えや気持ちを伝え合っている。(評価シート・行動観察・Review Card)</p> <p>話すこと [やり取り] (思考・判断・表現)</p> <p>話すこと [やり取り] (主体的に学習に取り組む態度)</p>
8	<p>◆クラスのみんなで10年後に行きたい「おすすめの都道府県」とその理由を伝えることができる。</p> <p>○Let's Read and Write</p> <p>・自分が1番行ってみたいと思った都道府県とその理由を書く。</p> <p>○Let's Try (発表)</p> <div data-bbox="236 1355 858 1550" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>I want to go to Hokkaido. We can buy Shiroikoibito. Hokkaido is fantastic! I want to go to Hokkaido with 6 - 3 !</p> </div> <p>○Review</p>		○	○	<p>◎みんなで行きたい旅行先とその理由を伝えている。(行動観察・Review Card)</p>

単元のパフォーマンス課題 話すこと [やり取り] 6・7時間目

10年後クラスのみんなで行く旅行先を決めるために、「おすすめの都道府県」について、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。

8 本時の学習 (6時間目/全8時間)

(1) 日時

(2) 場所

(3) 目標 クラスのみんなで10年後に行きたい「おすすめの都道府県」の魅力について、伝え合うことができる。

(4) 展開例

時間	児童の活動	指導者の活動	指導上の留意点 ◎評価規準 (評価方法)
1分	○Greeting ・調子(ペアトーク)		
5分	○Small Talk ・本時のSmall Talkのテーマを知る。 ・授業者によるデモをみる。	<div data-bbox="237 815 1398 1700" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★Small Talkカードに示されている選択肢(Ground, Library, Classroom)から自分が中休みに行きたい場所を選び、理由とともに話す。</p> <p>ALT: Where do you want to go? HRT: I want to go to the library. ALT: Why (do you want to go to the library)? HRT: Because we can read many books. ALT: What kind of books do you like? HRT: I like picture books. What kind of books do you like? HRT: I like comics. ALT: Me, too. I like comics.</p> <p>ALT: Where do you want to go? HRT: I want to go to the ground. ALT: Why (do you want to go to the ground)? HRT: Because we can enjoy playing tag with my friends. ALT: What else can we enjoy? HRT: We can enjoy playing basketball and soccer. Do you want to play basketball? HRT: Yes, I do. I like basketball.</p> </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者と代表児童で簡単なやり取りを行う。 ・自分が中休みに行きたい場所について、「Small Talkカード」を使って、ペアでSmall Talkを行う。 ・ペアをかえて2回目を行う。 		

2分	<p>○Today's Goal</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を振り返り、本時の学習の見通しを持つ。 ・本時の最後に、クラスみんなで10年後に行きたい都道府県を投票することを伝える。 ・やり取りの目的（この旅行は、だれと行く旅行なのか、いつ行く旅行なのか）を再度確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やり取りの目的（Today's Goal の波線部）を意識させる。 	
<p>Today's Goal</p> <p><u>クラスみんなで10年後に行きたい「おすすめの都道府県」の魅力について、</u> 伝え合うことができる。</p>			
5分	<p>○Let's Watch and Think</p> <div data-bbox="244 808 1406 1406" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【 Demonstration① 】</p> <p>ALT: Where do you want to go? HRT: I want to go to Hokkaido. ALT: Why (do you want to go to Hokkaido)? HRT: We can eat kaisendon in Hokkaido. I ate kaisendon. It was delicious. ALT: What can we see? HRT: We can see beautiful night view. ALT: What can we buy ? HRT: We can buy shiroikoibito. ALT: What can we enjoy ? HRT: We can enjoy skiing.</p> <div data-bbox="970 853 1374 1357" style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-left: 20px;"> <p>デモ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手主導 ・eat,see,buy,enjoy の4つを網羅的に紹介している。 ・相手の意向や好みを尋ねていない。 ・クラスみんなで10年後に行く旅行先を決めるという目的意識なし。 </div> </div> <div data-bbox="244 1413 1406 2190" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【 Demonstration② 】</p> <p>HRT: <u>I want to go to Hokkaido.</u> ALT: Why (do you want to go to Hokkaido)? HRT: We can eat kaisendon in Hokkaido. I ate kaisendon. It was delicious. ALT: Umm, sorry. <u>I don't like seafood. I like meat.</u> HRT: Oh, . . . OK, we can eat jingisukan in Hokkaido. <u>Do you want to eat jingisukan ?</u> ALT: Yes, I do. It seems delicious. HRT: <u>We can eat jingisukan with beer.</u> ALT: Sounds nice ! What can we enjoy ? HRT: We can enjoy skiing. <u>We didn't go to ski-kyousitu.</u> <u>So I want to enjoy skiing with 6-3. Do you want to enjoy skiing?</u> ALT: Yes, I do. <u>I like skiing. I want to enjoy skiing. I want to go to Hokkaido.</u> HRT: OK. 2人: Let's go to Hokkaido.</p> <div data-bbox="983 1447 1386 1980" style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-left: 20px;"> <p>デモ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し手主導 ・eat,see,buy,enjoy の4つのうち2つを重点的に紹介している。 ・相手の意向や好みを尋ねている。 ・クラスみんなで10年後に行く旅行先を決めるという目的を意識している。 </div> </div>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・デモ②のよいところを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童から出された意見を、やり取りの目的(クラスみんなで10年後に行く旅行の旅行先を決めること)と関係づけて価値づける。 	
2 5 分	<p>○Enjoy Communication (前半)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスみんなで10年後に行きたい「おすすめの都道府県」の魅力について、友達とやり取りを行う。 ・ペアになったら、一方が先に話し手(おすすめする側)になり、立場を交代して連続してやり取りを行う。 <p>※児童の動きの詳細は、別紙参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表児童のやり取りをみて、やり取りをよりよくする方法を考える。 <p>○Enjoy Communication (後半)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半と同様に、児童同士でやり取りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1分30秒が経過したら話し手と聞き手を交代する合図、3分が経過したらペアを交代する合図を出す。 ・時間いっぱい友達とのやり取りを継続するように伝えておく。 <p>中間指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間指導は5分程度の予定。 ・やり取りをよりよくする方法を、話し手と聞き手の両面から考えさせる。 ・相手の意向を尋ね、相手がNoと返答した場合と、Yesと返答した場合の両方を取り上げ、「クラスみんなで10年後に行く旅行の旅行先を決める」という目的に即してやり取りを継続・発展させるための方法を考えさせ、全体で共有し、後半でのやり取りに生かせるように、中間指導を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・1分30秒が経過したら話し手と聞き手を交代する合図、3分が経過したらペアを交代する合図を出す。 	<p>◎「おすすめの都道府県」について、簡単な語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちをクラスの友達と伝え合っている。(行動観察) 話すこと [やり取り] (思考・判断・表現)</p> <p>◎「おすすめの都道府県」について、簡単な語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちをクラスの友達と伝え合おうとしている。話すこと [やり取り] (主体的に学習に取り組む態度)</p>

7 分	<p>○Review</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後半で使うことができた英語表現を振り返る。 ・代表児童のやり取りをみる。 ・Today's Goal を達成することができたか振り返る。 ・本時のやり取りを通して、自分がクラスのみんと 10 年後に行きたい都道府県を, Google フォームで入力する。 ・入力された結果を見る。 ・次時への見通しを持つ。 <p>○Greeting</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時自分がやり取りをした相手の「おおすすめの都道府県」の中から1つ選ぶこと、自分の「おすすめの都道府県」は選べないことを伝える。 	
--------	--	---	--

(5) 評価基準 (ルーブリック)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
a	<ul style="list-style-type: none"> ・「おすすめの都道府県」について、 Where do you want to go ? What can we eat/see/buy/enjoy ? We can eat/see/buy/enjoy. I went to /ate/saw/enjoyed～. などの表現や既習の語句や表現を正確に用いている。	<ul style="list-style-type: none"> 【話し手】 ・「おすすめの都道府県」について、聞き手に共感してもらうために、既習の語句や表現を用いて、<u>聞き手の意向を尋ね、返答に応じて、おすすめの理由を伝えている。</u> 【聞き手】 ・相手の「おすすめの都道府県」でできることを質問し、<u>さらに自分の考えや気持ちを伝えている。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 【話し手】 ・「おすすめの都道府県」について、聞き手に共感してもらうために、既習の語句や表現を用いて、<u>聞き手の意向を尋ね、返答に応じて、おすすめの理由を伝えようとしている。</u> 【聞き手】 ・相手の「おすすめの都道府県」でできることを質問し、<u>さらに自分の考えや気持ちを伝えようとしている。</u>
b	<ul style="list-style-type: none"> ・「おすすめの都道府県」について、誤りが一部あるがコミュニケーションに支障の Handwriting We Can Light などの表現や既習の語句や表現を用いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【話し手】 ・「おすすめの都道府県」について、既習の語句や表現を用いておすすめの理由を伝えている。 【聞き手】 ・相手の「おすすめの都道府県」でできることを質問している。 	<ul style="list-style-type: none"> 【話し手】 ・「おすすめの都道府県」について、既習の語句や表現を用いておすすめの理由を伝えようとしている。 【聞き手】 ・相手の「おすすめの都道府県」でできることを質問しようとしている。
c	<ul style="list-style-type: none"> ・ b を満たしていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ b を満たしていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ b を満たしていない

(6) 想定されるパフォーマンス

思考・判断・表現 b

ST1: Hello. ST2: Hello. ST1: Where do you want to go? ST2: I want to go to Hokkaido. ST1: Why (do you want to go to Hokkaido)? ST2: We can eat kaisendon in Hokkaido. I ate kaisendon. It was delicious. ST1: Sounds nice. What can we see ? ST2: We can see night view in Hakodate. ST1: What can we buy?

ST2: We can buy Shiroikoibito.

ST1: What can we enjoy ?

ST2: We can enjoy skiing.

ST1: Oh, I see. Thank you.

ST2: Thank you.

思考・判断・表現 a

ST1: Hello.

ST2: Hello.

ST1: Where do you want to go?

ST2: I want to go to Hokkaido.

ST1: Why (do you want to go to Hokkaido) ?

ST2: We can eat kaisendon in Hokkaido. I ate kaisendon. It was delicious.

Do you want to eat seafood?

ST1: Yes, I do. I like ikura.

ST2: That's good. We can eat ikura.

ST1: Sounds nice. What can we see ?

ST2: We can see night view in Hakodate.

ST1: What can we buy?

ST2: We can buy Shiroikoibito. Do you like sweets?

ST1: Yes, I do. I like chocolate.

ST2: Really? Shiroikoibito is chocolate cookie. It's delicious.

ST1: It sounds nice. Thank you.

ST2: Thank you.